

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>気象変動による大波、大雨、洪水など嘗てない災害に見舞われるようになった零細漁民が、約2ヶ月毎に0.5～5.5トンのキリンサイを収穫できるようになり、持続的な生活向上に繋がった。特記すべきは、今まで実現できなかった雨期を通しての種の確保に成功した。</p>
(2) 事業内容	<p>(ア) 県海洋漁業省による種苗の準備と資機材の支給 種苗を購入し、種苗の供給源となる一定量の海藻を栽培する。また、養殖に用いるロープ、アンカー、ブイ、ネット、木材（乾燥場作製用）等の必要資材を支給する。 ・6月にトロカロ村4世帯、ソロ村1世帯に計1.5トンの種、7月、トロカロ村6世帯に計1.7トンの種を供給し、種付けを開始。8月、トロカロ村で4トン収穫し、1.5トンを出荷、2.5トンを種として保管できた。ソロ村でも約500キロを収穫し、110キロを出荷。9月、トロカロ村で3トン収穫、大部分を種として使用。10月、トロカロ村で5.5トン収穫、3トンを出荷、2.5トンを種として使用。11月、トロカロ村で800キロを収穫、400キロを出荷。こうして、養殖事業は、トロカロ村に於いて持続可能な事業となった。</p> <p>(イ) 養殖方法（ケージカルチャー）の技術指導 養殖方法の多様化と種苗の保存のため、試験的にケージや吊下げ式の仕組みを製作し、種々のケージカルチャー等を実証試験的に実施する。 ・本部専門家による3回のケージカルチャー並びにアイスアイス対策に関するセミナーを実施し、上記実証試験を行いながら収穫に成功した。 2016年1月には、荒波対策、並びに小魚による食害対策として害魚防止ネット付の籠型ケージカルチャーを大小2個ずつ作製し、比較実験を実施。独自のメソッドを確立し、成果を上げることが出来た。</p> <p>(ウ) 嘗て県政府が建設し10年来放置されている海岸の作業場を修復し、養殖事業の拠点とする。 3月に資機材の調達を開始し、6月には作業場の修復工事を完了した。</p> <p>(エ) リーダーミーティングの実施 毎月2回、スタッフとリーダーが集まり、養殖に関する課題・改善策等（経営管理、品質管理、販路開拓等）について協議し、事業の自立発展性を強化する。 通年に渡り月例2回のミーティングを開催し、各世帯の代表者たちが養殖事業をリードする人材に成長した。また、スタッフのフィリピン研修から持ち帰った新しい情報が、リーダー養成プログラムに取り入れられた。</p> <p>(オ) 様々なセミナーの実施 ・本部専門家を含む養殖事業のためのセミナーを通算8回実施し、10世帯の各リーダーの養成を行うと共に、養殖事業未経験者33世帯約50人が定期的にセミナーに参加するようになった。 ・トロカロ村・ソロ村で実施するベースライン調査質問票作成し、6月には、トロカロ村でSWOT分析を実施。 ・9月県内専門家による女性の参加促進セミナーを開催、45人が参加。</p>

	<p>・10月・県内講師による自己啓発セミナー開催。</p> <p>2016年2月、現地事業責任者と現地スタッフのためのフィリピン研修を実施し、新しい情報を収集することが出来た。</p> <p>既述の本部専門家によるケージカルチャーの技術指導と並行し、キリンサイの品質管理に関するセミナーも開催し、未経験者も含め、30人が参加。</p> <p>(カ) 協同組合設立支援</p> <p>協同組合設立のための調整、組織強化を支援する。また、組織化されたグループとして、生産規模を活かし、安定した販路を確立させる支援を行う。</p> <p>本部事業担当・本部PMによる事業実施・販路・品質管理に関する調査を実施し、11月以降には、現地漁協局と共同で県内の漁民を対象とするキリンサイ養殖に関する報告会の中で、協同組合の必要性をアピールしはじめた。また、定期的に、他の養殖実施地コアンコ村のリーダーとトロカロ・ソロ両村のリーダーが集まり、協同組合設立準備を開始した。しかし、同事業実施期間中の協同組合設立は、叶わなかった。(設立準備支援が目的であって、実際の設立には2～3年を要すると考える)</p> <p>(キ) 近隣の養殖従事者・生産者間の情報交換の促進</p> <p>養殖従事者同士が知り合い、情報交換ができるよう島内の養殖場を訪問し情報交換等の交流支援を行う。</p> <p>近隣の養殖従事者との交流と情報交換の場作りを6月からはじめ、その一環として、12月にキリンサイを活用した料理講習を実施、クルップ(揚げせん)や他の菓子作りを2日間にわたり実施。近隣の養殖事業者間の有意義な交流と情報交換の場となった。また、県内で最もキリンサイの生産量が高い郡外のコアンコ村を、トロカロ村のリーダー3人と現地スタッフが訪問し、情報交換を行った。それ以降、コアンコ村との良好な関係を維持している。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>成果1: 直接受益者である零細漁民10世帯が、キリンサイ養殖事業に於けるリーダーとして養成されると共に収入が増加する。</p> <p>指標 1-1: 全10世帯(約70人)が、違法乱伐に携わらずキリンサイ養殖を生業とすることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トロカロ村の全10世帯(約70人)が違法乱伐を止め、一年間で7トンの種を確保することができ、キリンサイ養殖が生業となった。</li> </ul> <p>指標 1-2: 全10世帯が、アイスアイスの発生時、並びに異常気象による災害時に、適切な対応が出来るようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全10世帯が、適切に対応したため村ではじめて被害ゼロを記録した。</li> <li>・異常気象による高波対応策として、ロープを海面から1m程度深く設置するメソッドを試行し効果を上げた。</li> </ul> <p>指標 1-3: 一世帯当たりの月収を約1,400,000ルピア(約13,000円)から800,000ルピア(約7,500円)増の2,200,000ルピアにすることが出来る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標以上の1,000,000から1,100,000ルピア(約10,000円)の増額増となり全10世帯の収入は2,400,000～2,500,000ルピアになった。</li> </ul> <p>成果2: 直接受益者のほぼ半数に当る女性に就労機会を与える。</p> <p>指標 2-1: 現金収入のない女性が、養殖事業に参加出来る。</p>

・各世帯から3～5人の女性(子どもを含む)が養殖事業に参加するようになった。

指標 2-2: 母子家庭やDVなど家庭内に問題を抱えている女性が、現金収入を得、人権の獲得を含め家庭内での居場所を確保することが出来る。

・女性の参加促進セミナーに今まで養殖事業に携わっていない10人を含む45人の女性が参加した。その内の5人は家庭問題を抱えていたが、養殖事業に参加するようになり350,000～500,000ルピアの自由になる現金収入(副収入)を得た。これによって、家庭内での立場が改善されたと、本人たちから報告を受けた。

指標 2-3: 女性が副収入を得ることで、幼児に不足がちな蛋白源や薬の購入を容易にする。

・自由になる現金収入(副収入)を得たことで、必需品の追加購入が可能となったことがアンケート調査の結果分かった。

成果 3: 直接受益者である10世帯の養殖事業に関連する種々の能力と知識が向上する。

指標 3-1: 直接受益者が組織化され、組合設立を目指し準備を始めることが出来る。

・10世帯の各代表がリーダーミーティングの中で組合設立に関する情報収集をはじめた。また、リーダーの代表2人が、組合設立の可能性について漁業局と不定期に会合を持った(3回)。

指標 3-2: 近隣の漁村を巻き込んだキリンサイ養殖事業従事者ネットワークが構築される。

・ソロ村1世帯に計1.5トンの種を供給し、養殖事業を開始した。さらに、50mのネットを利用した新養殖メソッドも成果を上げ近隣の村とのネットワークが構築された。

指標 3-3: 県並びに州内外に、同事業を零細漁村の村興しのパイロットとして紹介することが出来る。

ソロ村を筆頭に、隣接する東ソロ村、また漁業局の要望のあったナガトゥンプ村に養殖事業の可能性についてセミナーを通して紹介することができた。また、現地スタッフのフィリピン研修の結果、収穫、乾燥、管理の過程に於ける様々な工夫について学び、トロカロ村の全リーダーと共有した結果、品質向上を齎すことになり、この情報を既述した近隣の村と共有し村興しのパイロット事業としての役割を果たした。

成果 4: キリンサイ事業を生業とする零細漁民が増加する。

指標 4-1: 300世帯の中から、キリンサイ養殖に関するセミナー等への参加者が増える。

・養殖事業の経験のない33世帯から55人がセミナーに定期的に参加した。

指標 4-2: 300世帯の中から、リーダーミーティングに参加し、実際に指導を受けながら、キリンサイ養殖を開始する。

・ソロ村の1世帯並びにトロカロ村の未経験29世帯が養殖事業を実施した。

指標 4-3: 300世帯の中から200世帯以上がキリンサイ養殖を主要な収入源として月収800,000ルピア(約7,500円)増を目指し、生活を向上させる。

300世帯の中から29世帯が養殖事業副収入にするようになったが、生業(本業)としたのは4世帯のみだった。最大の要因は、一獲千金を夢見て代々暮らしてきた漁民の思考を、頻繁に手入れが必要で根気のいる養殖事業へ

	<p>転換させることの難しさが挙げられる。しかし、本事業の継続によって、養殖事業を試行したい、副業として実施したい世帯が少しずつ増加している。既述のように、生業とした世帯は、目標を上回る 1,000,000 ルピア以上の収入増を実現している。</p> <p>上記以外に、</p> <p>1. (カ) 協同組合設立支援と (キ) 近隣の養殖従事者・生産者間の情報交換の促進に繋がる成果として、今までの生産量が小ロットだったため近寄らなかったキリンサイ買付人（バイヤー）が、トロカロ村のキリンサイ増産を知り、複数買い付けにくるようになった。この結果、新たな販路の可能性が生まれ、一方的に買い叩かれることがなくなった。</p> <p>2. 現地事業責任者並びに現地スタッフのフィリピン研修の実施により、持続可能なキリンサイ養殖事業の在り方を学ぶことができた。この経験と持帰った資料を、トロカロ村とソロ村のリーダー共有でき、収穫、乾燥、管理の過程に於いて細部に渡る工夫が生産性を高める結果となった。例えば、種付けの際、種をロープに結び付けるときの結び方や紐の材質、また、ロープの設置位置と季節による風向きとの関係などへの配慮、他が報告されている。</p>
<p><b>(4) 持続発展性</b></p>	<p>収穫された海藻の一部を種苗として利用し、事業を 12 ヶ月サイクルで継続できるようになり、持続可能で安定した収入源となった。また、近隣の村々に於ける養殖事業従事者のネットワークが構築され、情報交換、種苗の相互供与などの面での協力関係も生まれ、零細漁村のための村興しのひとつ、ドンブ県全体の持続性、発展性のある主要地場産業に成り得ることを示した。</p>